

暮らしを支える農地防災事業

～豪雨、台風、地震などの災害から農業農村を守る～

農地防災事業って何？

田んぼや畑を自然災害から守るために、ため池や農業用水路、排水路の改修などをおこなう事業です。農業経営の安定を図るとともに、地域住民のいのちや暮らしの安全を守る役割を担っています。



改修後のクリーク

誰がどんなしごとをしているの？

農林水産省の職員が、**ため池の改修** **排水施設の整備** **地すべりの防止** **水質保全** などに関する事業を行っています。



「働く場所」と「しごと」の内容



全国各地に事業所があり、**事務系職員**と**技術系職員**がいます。

佐賀県には、**「筑後川下流右岸農地防災事業所」**が設置されており、佐賀平野の用排兼用水路**「クリーク」**の保護整備を行っています。



事務系職員のしごと



工事の契約に関することや、庁舎管理、事業の予算管理、工事に必要な土地の取得や補償、支障となる施設の移転手続き、財産管理などを行っています。幅広い知識が求められる職種です。

技術系職員のしごと



工事の設計に関することや、調査業務、工事の予算管理、広報活動、工事の発注と実施、図面や仕様書の作成、工事の監督などを行っています。専門的な知識が求められる職種です。



★クリークの改修工事

筑後川下流右岸農地防災事業所では、主に「クリーク」と呼ばれる用排兼用水路(農業用水路)の改修工事を行っています。また、工事実施の際は、クリーク周辺の環境や生物に配慮しています。



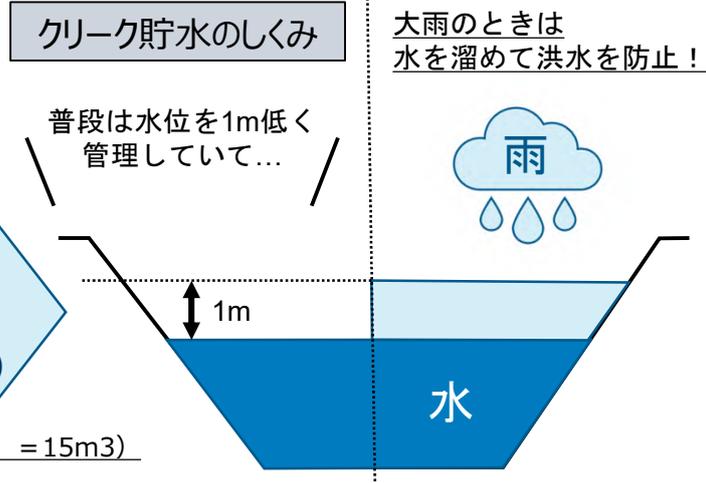
改修前



改修後

★事業の効果

クリークの整備により、水害の防止(貯留効果※右図)や用水の安定供給が可能となります。また、農作物を安定的に生産できる効果や、維持管理の労力低減が期待できます。



-1m管理を行うことで、
約 375万m³ の **雨水** を貯水可能！
(北山ダム最大貯水量2200万m³のおよそ**17%**)

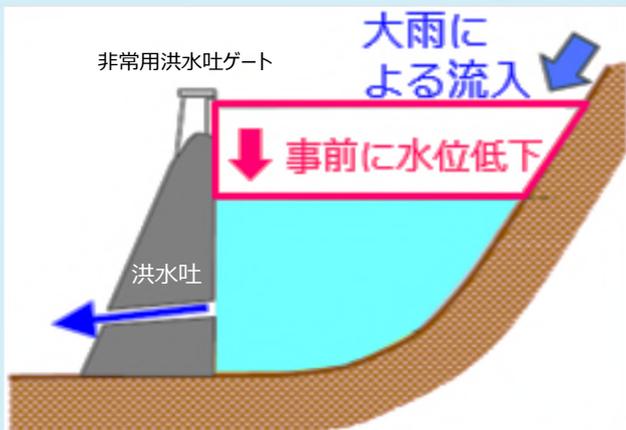
※既設利用も含む
延長1m当たり貯水量 (水路幅 (平均約15m) × 管理水位高さ (1m) = 15m³)
× 今回国が整備するクリーク延長 (約250km) として試算しています。

農林水産省が行うその他防災の取り組み



農業用ダムの活用

大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げ、降雨をダムに貯め、下流の氾濫被害を防止、低減させることができます。



※地区の状況に応じて、ダムだけではなく、調整池等でも事前放流にて貯水を実施

水田の活用 (田んぼダム)

水田の落水口に水を流れにくくする板を設置し、降った雨を水田に溜めてゆっくりと排水し、水路等の急激な水位上昇を抑制する取組。作物の生産に影響を与えない範囲で、水害リスクを低減しています。

